

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校 開校準備委員会通信

本通信は、3か月に1回の開催を予定している開校準備委員会本部会の開催後に、開校準備委員会の各ワーキンググループの意見交換を含めながら、本部会の意見交換の状況についてまとめて発行したものです。

1 開校準備委員会本部会（第4回）の会議概要

- 日時 令和7年7月24日（木）17:30～19:45
- 場所 武蔵浦和コミュニティセンター 第7・8集会室
- 次第 教育長挨拶
説明会について
 1. 各ワーキンググループからの活動報告について
 - (1) 校名・移行イベントより
(校名アイデア募集の現状報告)
 - (2) 通学区域より（通学区域等について）
 2. 「未来の姿」原案について
 3. その他

【本義務教育学校設置に関する保護者・地域説明会の報告】

○令和7年7月13日・14日に行った本義務教育学校設置に関する説明会について、当日の説明内容や参加状況、質疑応答等の報告を行いました。

○説明会の場では、今後の開校スケジュールへの不安の声が寄せられたことと、一方で、保護者や子どもたちからの期待や応援の声もあり、計画の白紙撤回はしないでほしいとする声もあったことを報告しました。

○参加者からは、工事発注に向けた進捗状況についての御質問がありました。現在、入札不調の要因分析のため、アンケート調査を行っていることを説明しました。

【各ワーキンググループについての活動報告】

（1）校名・移行イベントワーキンググループより

○6月8日まで行っていた校名アイデア募集について、1,353件の応募をいただき、なかでも在校生から1,107件の様々な期待を込められた校名アイデアを応募いただいたことを報告しました。

○7月に行われたワーキンググループにおいて、応募のあった校名アイデアについて、「地域性があり将来にわたって愛着が持てる」という選定基準に照らして絞り込みのための意見交換を行ったことを報告しました。

○8月に行われるワーキンググループにおいて2回目の絞り込みを行った後、その結果をもとに、10月の本部会において5個程度に絞り込むための意見交換を行う予定であることを報告し、御賛同いただきました。

（2）通学区域ワーキンググループより

○10月のワーキンググループと本部会で意見交換を行い、1月のワーキンググループで通学区域の案を決定し、同月開催の本部会にて報告する予定であることを報告しました。

○第3回ワーキンググループでは、本義務教育学校を選択できる特定地域に設定するエリアや、現在の案では内容谷校舎への通学予定であるが浦和大里校舎への通学へ変更する地域の範囲、また児童生徒の通学方法について意見交換を行っていることを報告しました。

○参加者からは、過大規模校の解消のため、現在提案しているエリアにこだわらず通学区域を検討することや、児童生徒の通学の支援について実現可能な方法を研究して欲しいという御意見をいただきました。

2 義務教育学校の「未来の姿」についての意見交換の概要

○義務教育学校の「未来の姿」について、前回の各グループの意見交換の内容を踏まえた原案を今回の意見交換のたたき台として提示し、御賛同いただきました。

○意見交換は、少人数でテーブルに分かれてのワークショップ形式で行いました。「未来の姿」原案に書かれた言葉から、重要なセンテンスや光るワードについて個人で考えてふせんに記入し、それらを分類したり、比較検討したりしながら意見交換を行いました。

○4つの視点*に分類された「未来の姿」原案をもとに、一つひとつの視点のみにとらわれず、特に大切だと思うものや今後残していきたいものを『未来の姿の柱』として練り上げるための意見交換を行うことを説明し、御理解いただきました。

*「未来の姿」の4つの視点

.....「子ども（児童生徒）が学ぶ場として」

「子ども（児童生徒）が学校生活を営む場として」

「地域の核（拠点）として」「教職員の役割と働く場として」

○参加者からは、本義務教育学校が地域の拠点となり、様々な人と人の「つながり」を活かした教育活動を行うことで、多様な学びによって多様な価値観をはぐくめる学校になるという意見交換がありました。また、9年間の子どもの成長を一貫して見守ることができるという義務教育学校ならではの特色を活かした学校になることを『未来の姿の柱』をしたいという意見交換がありました。

○そのほか、義務教育学校の設置は、本市初の取組であるため、困難なことが多くあると思われるが、「失敗を恐れず挑戦する姿勢」で取り組み、この地域の子どもたちをよりよく育てる教育ができるようにしてほしいとの意見交換がありました。

【学識経験者からのコメント（概要）】

○今回の「未来の姿」の意見交換で出た「学校が『地域のつながりの場』となる」との意見は、私の授業での、明治期の義務教育の就学率向上による変化により、「学校」が地域社会の「新たなつながりの場」となり、地域全体の協力や連帯感の強まり、地域の文化や伝統の共有の発展をもたらした、とした学生の優れたレポートを思い出させるものでした。

○この授業では最終回に「目指す学校像」を考えさせますが、よく出るのは「ともに成長する学校」です。本義務教育学校の設置に向けても、「未来の姿」の4つの視点の通り、子ども、保護者、地域の人、教職員の全員が議論を繰り返し様々な困難を乗り越える中で、共に成長する場となることを期待します。

○他自治体の事例として、当初は懐疑的な声がある中、地域ぐるみで議論を繰り返し合意形成を経て開校した義務教育学校があります。開校後に、地域の思いを受けた子どもたちが主体となり地域への恩返し活動に取り組みました。議論を重ね新しくできた学校が地域の核となった事例です。本義務教育学校も議論を重ねることで地域と学校が「つながり、新しい文化と教育の核が生まれる可能性を感じています」。

